古里の香りを届けようと参加した八幡鹿舞の舞に会場は祭り一色となりました

ふる里山田同郷の会

同郷176人が集い 鹿舞の力強い舞に感激

東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深め合う「ふる里山田同郷の会」が6月16日、東京都文京区の東京ガーデンパレスを会場に開かれました。ことしで27回目となる同会には176人が出席。町からも佐藤信逸町長をはじめ職員5人、町議会から昆暉雄議長をはじめ議員2人、山田町商工会から阿部幸榮会長、山田町観光協会から坂本正副会長、三陸やまだ漁業協同組合から生駒利治組合長が参加しました。総会終了後には「懇親交流の集い」が開かれ、参加者は年に一度の同郷人との交流を楽しみました。

小川俶弘会長

総会に先立ち、町の現在の状況を町水産商工課の甲斐谷芳一課長がスライドを使いながら説明。参加者は悲惨な状況から水産加工場や仮設店舗など、再建へと進む町の姿を真剣なまなざしで見ていました。

総会では、小川俶弘会長が「山田を思う人がこんなに多く集まり大変ありがたく思います。復興へ向けてわたしたちができることは、山田印のものを買う、使う、食べるです。そしてそれを広くアピールすることです。復興までは試練の連続です。皆さん、古里・山田を支えていきましょう。本日は限られた時間を存分にお楽しみください」とあいさつしました。

参加者から一言

参加した皆さんから会に参加した感想を話してもらいました。

佐々木 登代子さん（72歳）
〔八幡町出身・写真中央〕

「～なんす」や「～ござりやんす」などの懐かしい方言が聞けてうれしいです。山田の方言は、ほっこりして優しい気持ちになります。今の町の状況を知り、少しずつでも前に進んでいることを実感しました。

①楽しみの一つでもある物産販売では、参加者が次々と山田の特産品を買い求めていました／②懐かしい思い出話に話が弾みます／③現在の町の状況を説明。参加者は、古里への思いを新たにしていました／④八幡鹿舞との記念撮影で笑みがこぼれます／⑤同級生との再会を喜び合う参加者の皆さん

続いて、佐藤信逸町長が震災当時を振り返りながらあいさつ。「一昨年、突如として大きな揺れが本町を襲い、その後の大津波、火災によって大きな傷跡が残りました。震災の3年目は“現実の時期”といって、住居や仕事などの再建、さまざまな現実と向き合う期間です。古里を離れ、山田を案ずる皆さんや町民の方々の気持ちを胸に復興へと道筋を示すのがわたしの責務です」と述べました。

その後、平成24年度の事業報告や本年度の事業計画が審議され、原案どおり承認されました。

総会終了後の「懇親交流の集い」は昆暉雄議長の乾杯の音頭で幕が開け、参加した皆さんはほろ酔い気分で思い出話に花を咲かせていました。

アトラクションでは八幡鹿舞が舞を披露。大都会に響く笛や太鼓に合わせた力強い舞に、懐かしさのあまり目頭を押さえる人やカメラを片手に追いかける人など、会場は祭り一色となりました。このほか、特産品が当たる抽選会も行われ、参加した皆さんは古里を思い出し満足した様子。2時間という短い時間でしたが、参加した皆さんは同郷の皆さんとの交流を楽しみ、来年の再会を約束しつつ会場を後にしました。

湊 靖人（やすと）さん（72歳）
〔北浜町出身〕

久しぶりに会う友人たちと情報交換などをし、同級生らは元気だろうか、今の山田はどうなっているだろうかと、古里へ思いをはせています。この会で山田の深いつながりを感じ、また来年も参加したいです。

佐々木 義光（よしみつ）さん（58歳）
〔後楽町出身〕

この会には、数えきれないほど参加しています。ここに来ると、古里を感じるからです。山田の話をし、特産品をいただいて帰るなど、楽しみがたくさんあります。山田の皆さん、俺は元気です！